



令和2年7月豪雨から4年 犠牲者に鎮魂の祈りささげる

フォトレポート

写真1・2 球磨川くんだり株式会社の社員らが黙とう。球磨川に花を流した
写真3・8 今年、市役所1階市民コーナーを会場に追悼式を開催
写真4・5 下青井町の慰霊祭には、遺族や住民らが参列
写真6 追悼式では、市民を代表し、当時市消防団の団長を務めていた丸尾喜世人（きよと）さんが追悼の言葉
写真7・9 花を手向け、手を合わせる遺族。参列した西村直美さんは「4年経っても悲しみは変わらない」と話した

本市で21人の犠牲者を出した令和2年7月豪雨災害から、7月4日で4年を迎えました。市では、6月30日に市役所で犠牲者追悼式を執り行いました。

遺族ら約20人が参列。犠牲者に黙とうをささげ、松岡市長が「二度とこのような悲劇に見舞われることがないよう、残された者の責務を果たしていく」と式辞。木村知事は「今後の県政において、令和2年7月豪雨からの復旧・復興を最優先に取り組んでいく」と述べました。市役所1階市民コーナーでは7月1〜4日に献花台を設け、市民からの献花を受け付けました。

7月4日には午前10時に市内全域に追悼のサイレンを鳴らしました。球磨川くんだり発船場では、球磨川くんだり株式会社の社員らが球磨川に向かって整列し、サイレンに合わせて黙とう。船頭の藤山和彦さんは「豪雨災害を経験していない若いスタッフも増えてきたが、当時のことを伝え続けていきたい」と話しました。

3人が亡くなった下青井町では下青井町会館で慰霊祭が行われ、町内に住む18人が犠牲者を悼みました。同町内会副会長の湖上憲男さんは「土地区画整理事業も進む中で、安心して暮らせるまちづくりの実現に向けて、私たちも頑張っていきたい」と前を向いていました。